

## 私の夢

加古川市立山手中学校 二年

志久 彩花

みなさんはどんな夢をもっていますか？

大人になると「もう夢は叶った。」とか、「あきらめた。」と思う方もいるかもしれませんが。でも私は、夢はいくつになってももつことができるものだと思います。

お花屋さん、ケーキ屋さん、みんなを守るヒーロー……。私も小さいころそんな夢をもっていました。

夢が大きく変わったのは9年前。5才のときでした。

父が脳こうそくでたおれたのです。幼かった私には“脳こうそく”という言葉の意味すら、理解することができませんでした。ただただ、父に会えないさみしさに毎日泣いていたことを覚えています。

一ヶ月経ち、奇跡的な回復力で、父は家に帰ってきました。喜びもつかの間、父は私に言いました。

「お父さんの体の右から半分は、熱いとか、冷たいとか、痛いとか何もう感じなくなっただよ。」

つまり、右半身がまひしてしまったのです。私は信じる事ができませんでした。目の前にはたおれる前と変わらない父、どこがどう変わったのか。

でも単純だった私は、

「私がお医者さんになって、お父さんの病気をなおしてあげるんだ。」  
そう決めました。

14才になろうとしている今、私は医療の道を目指しています。

父がたおれたことよって見つけた夢。だからこそ、患者さんの視線に立つ医師になることを一番の目標としています。そしてそんな医

師に少しでも近づくために、私は患者さんのかいた本をたくさん読んでいます。その中で私は「命の授業」という本と出会いました。腰塚勇人さんが体験したことをまとめた一冊の本、この本にあった「5つの誓い」を私は忘れることができません。

一つ。「口」は、人を励ます言葉や感謝の言葉を言うために使おう…。

二つ。「耳」は、人の言葉を最後まで聞いてあげるために使おう…。

三つ。「目」は、人のよいところを見るために使おう…。

四つ。「手足」は、人を助けるために使おう…。

五つ。「心」は、人の痛みがわかるために使おう…。

これを見たとき、素直に「ああ、そうだな。」とうなずきました。人間が一番力を発揮するのは相手のことを思うとき、ではないでしょうか。私もそうであるように、人は支え支えられ生きていくのです。

今は何をするにしても、すべて一人ではできないけれど、医療の道に進んだら、困っている人や傷ついている人、うれしいことがあった人、いろいろな人の心に寄りそい、そっと支えられる人になりたいと思っています。そして、父を救ってくれた医療の場で、社会にこう献すること。それが私の最大の使命です。